

2010 くすのき

VOL.21

樟 樹

樟樹会 新居浜西高等学校同窓会

校内こんなところ(こと)ご存知ですか?

● 第10回 ●

校内唯一の木造建造物?

記念会館南側の藤棚に隠れるようひっそり建つ自転車小屋。以前はこのタイプばかりだったそうで、ある年代までの卒業生には懐かしいのではないだろうか。

いつ建造なのか、学校の記録には残っていませんが、昭和38年の航空写真にはこの場所に写っています。ですが、朽ち具合などからそれ以前のものようで、各所に添え木などの補修の後があります。事務長のお話では、「どこかにあったものを、ここに移設したのではないだろうか」とのことです。

近い将来取り壊しになるかもしれないので、小誌に掲載し、写真だけでも残したいと思います。



進路掲示板が新しくなりました

以前は、玄関から第一教棟へ通じる通路に、学名と合格者の木札がずらりとあったのをご記憶の方も多いでしょう。(写真①)

その後、個人情報保護法の施行で、輝かしい成果を氏名入りで公表できなくなり、黒板が設置され、4年間の大学別合格者数が毎年書き込まれていました。ところが、チョークの文字は消えたり、痕が残ったり、また、使い勝手もよくないということ。平成20年度に新しい掲示板(写真②)が設置され、パソコンで作成した実績表が掲示されています。

本来昨年の号でご紹介すべきだったのですが、東日本樟樹会の特集を組み、この欄をお休みしましたので、今号での掲載となりました。



写真①

写真②

第2回東日本樟樹会開催

副会長 大澤 明文(昭和44年卒)

平成22年5月30日(日)12:00〜、5月にしては少し肌寒い天候でしたが、昨年の設立総会に続いて2回目の東日本樟樹会が行われました。参加人数は84人で、内男性52名、女性31名、学生1名でした。

まず井上会長の挨拶から始まり、続いて1年の活動報告と監査報告が承認され、来賓横山校長、畑田同窓会会長から挨拶があった後、懇親会に移りました。懇親会は着席スタイルで行われ、「新居浜の今昔物語」と題して、小学校区ごとに現在と昔の新居浜全地域の様子、秋祭り及び母校の今昔など、新居浜を偲ぶスライドショーを行いました。その後、新居浜に関するクイズ(新居浜検定)でテーブルごとに競つてもらい、出席者一同、久しぶりにふるさとを懐かしみながら、楽しく過ごしていただきました。

来年の再会(5月の最終日曜日)を約束して15:00に閉会となりました。



東日本

より

同窓会入会式



樟樹会会長
畑田 雅敏
(昭和44年卒)

輩方の存在は、大きな目標であり、自信にもつながり、安心感すら覚えます。

入会式のスピーチで、「自分の能力や可能性を信じ、力いっぱい羽ばたいてください。そして、もし困った時には、各界でご活躍の素晴らしい西高の先輩が、全国各地に沢山いらっしゃると思いますので頼ってください。必ずや親身になってくれるでしょう」と伝えましたので、その節はよろしくお願い申し上げます。

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃は同窓会活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。誌面をお借りし、平素の疎遠をお詫びいたしますとともに厚くお礼申し上げます。

昨年は、しばらく休止しておりました関東地区での同窓生の集いが、名称も新たに「東日本樟樹会」として、会長に株式会社JSP社長の井上六郎先輩が就任され、5月30日の設立総会で発足いたしました。東日本地区在住の卒業生にはもちろんのこと、本部にとりましてこの上ない喜びであります。これにより、会員間の交流がより深まりますようご期待申し上げます。

さて、本年2月に322名の卒業生が新たに同窓会に入会いたしました。進学先や就職先での期待と不安の中、各々が全国に巣立っていききました。彼等にとりまして先

本年も入会記念品には、武田信之先輩・藤田石根先輩が1989年に設立した「日本のお手玉の会」(新居浜に本部)によるお手玉セットを贈りました。先輩方が始めた小さな活動が、現在では世界に羽ばたき、国内43支部・海外3支部(ロサンゼルスに1支部・サンディエゴに2支部)メンバー2,600人の大組織に広がり、「サントリ地域文化賞」受賞や、NHK「我が故郷の宝」等で取り上げられるなど、素晴らしい功績を残しております。このような先輩の西高魂を、後輩たちも引き継いでもらいたいという思いをお手玉に託し、次の日本をになう活躍をしていくことと信じてお渡ししております。

同窓生の皆さんには今後とも後輩たちを温かく見守っていただき、さらなるご健勝ご活躍をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

支部だ 松山

松山樟樹会 第8回総会

近藤 良一(昭和63年卒)

母校の創立70周年を機に設立した松山樟樹会も22年が経過し、平成21年11月7日に第8回総会(3年毎開催)を松山国際ホテルにて開催いたしました。

今回は新しい試みとして、財団法人新居浜病院の枝廣篤昌副院長を講師に「笑いのちから」という題目で講演していただきました。一般の方々も数十名参加され、全員でおもしろい笑い、心も体も元気になったと感じました。

その後の懇親会、松山で開催しても、オープニングはやはり太鼓台のDVD、皆さん太鼓台の話題で盛り上がりました。恩師紹介、全員参加のアトラクションなどで最高潮となり、最後には「新居浜西高の校歌を全員で合唱、円になって手をつなぎ、おてつないで」を合唱し、全員が同じつながら、絆をもった時間をすごしました。

記念撮影の後、3年後の再会を誓い、全員が笑いながら終了いたしました。



同窓生

文化面、産業界など各界にわたり活躍されている

同窓生をご紹介しますコーナーです

紹介



神岡 なつみ
(かみおか なつみ)

Profile

平成12年3月	新居浜市立 中秋中学校卒業
平成15年3月	新居浜西高等学校 普通科卒業
平成19年3月	京都大学工学部 物理工科学卒業
平成22年3月	京都大学工学部 科材料工学専攻 修士課程修了
平成22年4月	パナソニック株式 会社入社 本社R&D部門にて 研究開発に従事

理系人生への入り口

理系へ進むことを決めたのは西高1年の終わりの文理選択のときです。数学が得意で、社会の授業が苦手だから、というだけの理由でした。物理との出会いは、2年ときの藤本茂州先生の授業でした。「物理はイメージ」と言うのが口癖の藤本先生の授業は面白く、どの教科よりも物理が好きになりました。

科学研究との出会いも、高校2年のときでした。隣のクラスの友人が、藤本先生の指導の下、女子数人で放課後に科学実験を始めたという話を聞いたのです。「なんだか面白そう」と思い、見学させてもらいました。ここでは、プラスチック製の定規などにレーザー光を当てると、透過したレーザー光が回折して、きれいな模様を壁に映し出していたのです！その現象の不思議さに感動して、そのまま科学実験の仲間入りをさせてもらいました。

科学実験は面白く、放課後に物理実験室へと、準備室の暗室に通いました。5人で実験したり、議論したりしながら、人生

初の研究レポートにまとめました。藤本先生の勧めで日本学生科学賞に応募してみたら、文部科学大臣賞という大きな賞をいただけてしまいました。この経験に味を占め、翌年は、私と後輩の池田舞さんとの二人で続きのテーマで研究を行いました。

池田さんの発想力のおかげで、研究はより面白くなり、翌年も日本学生科学賞で受賞することができました。科学未来館賞をいただいた上、International Science & Engineering Fair (ISEF) という、世界中の高校生が集まる科学研究の大会に、日本代表として参加することになったのです！

そんなわけで、一週間ほどアメリカへ行かせていただきました。英語でのポスター発表、他県・海外の高校生との交流、派手な開幕式や授賞式、ダンスパーティーなど・・・驚きとわくわくがいつはいでした。ISEFでも、受賞することができました。

ISEFの効果で、私と池田さんの名前が新星に名づけられたというニュースもありました。非常に光栄すぎるお話で、

正直未だに信じられません。そんなハプニングを含めても、ISEFは本当に夢のような経験でした。スポーツや芸術などが全て不得意だった私にとっては、日本科学賞やISEFは、初めての受賞の経験で、とても嬉しく、大きな自信となりました。

西高で実験が好きになり、大学は工学部へ進学しました。大学入学後はしばらく科学研究を離れてしまいましたが、大学4年生になり研究活動を始めると、研究が面白く、そのまま大学院に進学しました。

そして昨年、修士課程を修了後、メーカーに研究開発職として就職しました。今は材料開発に従事しており、業務内容も面白く、非常に充実した日々を送っています。予想外の化学現象に出会っては頭を悩ませる半面、わくわくしています。

理系として生きる女性の数はまだまだ少なく、工学部では消費税率並みの5%、職場では10%という女性率の中で過ごしてきました。そんな環境も慣れてしまおうと快適です。まだまだ技術者の卵ですが、これからの長い人生もずっと理系として生きていきたいと思っています。

今こうして振り返ると、私の理系人生への入り口は間違いなく西高にあります。科学研究の面白さを知り、自信を得た経験が、自分の原点になっていると思います。支えていただいた全ての皆様、とりわけ、藤本先生にとっても感謝しています。これからも、自分らしく生きていくことで、少しでも理系を志す後輩たちへの励みとなり、皆様への恩返しになればと思います。



今井 康博
(いまい やすひろ)

Profile

昭和57年	新阪浜西高等学校 普通科卒業
昭和61年	香川大学法学部卒業 後に京都大学大学院法学研究 科修了
昭和61年	(株)阪急百貨店入社 企画開発 室 配属
平成16年	事業開発室長兼店舗計画部長
平成19年	(株)阪急キッチンエール 代表 取締役社長 (株)エプリディ・ドット・コム 取締役 愛媛県観光大使等

私のチャレンジ

1、学生起業

保守的な家庭環境からの独立を目指して、高校時代から起業に向けたアイデア探しを行い、大学ではアイデアの具体化にチャレンジしました。これが、私の経営人生のスタートです。

2、学業、部活動と事業の一人三役

大学では法学部で企業法務を専攻し、教育学部で教員養成課程も同時履修。更に体育会系クラブから文科系の合唱団(150名程の団長)まで関わり、これが後に大いに役立つ事になります。

最初に手掛けた事業は、家庭教師派遣と学習塾で、学生だからこそできる事業。

2つめは草創期の結婚披露宴のビデオ撮影とアルバム作成事業。大手メーカーの経営者が興味を持ち、当時はテレビ業界にしかなかった1台200万円以上するビ

デオカメラを試用できる事になり、事業化に成功。

3つ目は当時隙間ビジネスであった人材派遣業。結婚披露宴やパーティーのコンパニオン等、学生中心に数百名を派遣。

4つめは食品輸入。共産圏からのジャムやキャビア等の嗜好品の輸入は需要旺盛。これらのニーズは高く口コミで受注が増え、売上数十億円の会社に成長しました。

しかし、更に広い視野でチャレンジしようと思いつき、卒業を機に会社をM&A。商売を改めて学ぼうと現在の小売業界に進みました。

3、企業人として

(株)阪急百貨店では事業開発・店舗出店に携わり、事業拡大の先鞭を担ってきました。全国主要都市や海外を飛び回り、都市計画から出店交渉まで幅広く行ってきました。例えばGAPの日本1号店の誘致や、来年

開業の新博多駅ビルへの百貨店出店等、話題の商業施設づくりに邁進してきました。

3年前に食品宅配事業を再構築し事業化するという目的で、全く畑違いの世界に関わる事となりました。顧客・取引先・生産者そして仲間達に必要とされ、社会から愛される企業とは何か。「世界一やさしい地域に根ざした愛情ある御用聞きビジネスのオンリー企業になります」という高い企業ビジョンを掲げ、プランの「着地点をイメージ」してスピード感を持ち「先ずはチャレンジ」。これを繰り返し実行し続ける経営。利益が出れば社会に還元。当然失敗もありますが、それを糧に更なるチャレンジを続けられるかが成否の分かれ目です。諦めやフリーズが最大の敵。当社の強みは、1,000名のスタッフが知恵を出し合い、1人3役する姿勢でフル稼働できる事に尽きます。商品的には日々の食料を中心にデパ地下惣菜やスイーツ、生活雑貨などの品揃えの豊富さ。サービスのには24時までにご注文頂くと「年中無休」で「翌日17時迄にお届け。最近では「時間帯指定」や「当日エクスプレス便」を実施。更に高齢者対応として、お電話での口頭注文承りから安否確認サービス迄を実施。この様なチャレンジで、他社の追随を許さない「圧倒的なサービス水準」で「熱狂的なファン」を増やしてきました。この結果、大幅に増収増益を達成し黒字経営に成功した3年間の取組みが、TV東京「ガイアの夜明け」

4、在校生のみなさんへ

社会に必要な教養・社会性といったものは、小・中学生生活で身につけたものが一生の糧となります。社会生活を過ごすのにはこの時の経験で充分です。

高校生活は社会で生き抜く為、夢にチャレンジする為に自分自身の強みを見つけ、鍛える場。大学や会社等の社会生活では自分の夢や目標の達成に向け専門性を追求、実践する場だと思います。「実践」経験的に言うと、①イメージする②そのイメージより高い目標を立てる③スケジュールを決める④軽くチャレンジ⑤見直し⑥本格チャレンジ⑦反省⑧再チャレンジ⑨成功の果実取得(結果責任を取る)⑩新しいチャレンジをイメージ。この様な基本パターンで「成功する迄やり抜き事が成功への近道」(笑)であると思います。

私自身も「サービス世界」(ニューヨクの企業と競争)と言われる様になる為に、時代の先頭を走り続け、楽しみながら道を切り拓いて行こうと思っています。更にもっと広い視野で経営基盤の安定と拡大、そして地域への社会貢献を仲間達と共に取り組んで行く事が使命と考えています。自分自身の可能性を信じて「lets challenge! Take it easy! (何んかなるや)」

の歩み

夢の舞台へ…

男子ソフトテニス部 主将 越智 勇 人



昨年、僕たちソフトテニス部は県総体で三十年ぶりに団体優勝し、インターハイに出場しました。個人戦でも村上・武丸組が優勝し、県新人大会、ハイスクール・ジャパンカップ県予選と合わせて三冠を達成しました。「インターハイ」は僕たちソフトテニス部の大きな目標であり、運動部の人たちなら誰もが目指す夢の舞台です。これは県内で一校しか出場できない大変な誉なことです。僕たちがインターハイに出場したことをご存知の方は多いと思いますが、部の練習風景を御覧になったことがある方は少ないのではないのでしょうか。理由の一つはテニスコートが校舎から離れた場所にあるためだと思います。そこで、「インターハイ出場」という目標を達成するために僕たちが行っている練習について、少しだけ紹介したいと思います。

まず、当たり前なことではありませんが、強いチームになるためには、とにかく練習が必要であり、一般的には、練習時間に比例して上達します。しかし、公立で進学校の本校では、他校に比べて練習時間が限られています。それでも、試合では、練習量の豊富な高校と否応なく対戦しなければならず、練習量の差を実感することが少なくありませんでした。その差を埋めるために意識していることが練習の質を高めることです。僕たちの練習は、平日の、六時間授業の日は、3時30分から、七時間授業の日は4時30分から日没まで。休日は8時30分から12時30分までです。いずれも短い時間ですが、顧問の山之内直樹先生が指導してくださり、毎日、中身の濃い練習を行っています。練習メニューも先生が考えて、僕たちの弱点を効果的に克服できるようにメニューを随所に取り入れてくださり、常に質の高い練習ができています。また、晴れの日だけでなく、雨の日には、第二教棟の四階の空いたスペースを使用し、筋力トレーニングを行っています。約一時間ぐらいいののですが、翌日には必ず筋肉痛になるくらいきついものなので、終了後は、いつも、やりきったという達成感を味わっています。晴れている日でも、コートが使用できない場合には、第二グラウンド周辺のランニング、その後、素振りをしたり、ボールを使った簡単な練習を工夫して行っています。

また昨年は、OB会の方々から旗を作ってくださいました。この部旗には、「夢・志・道」と書かれており、僕たちに対する激励の気持ちと、期待が詰まっています。お忙しい中このような素晴らしい部旗を作ってくださいましたOB会の皆様にご感謝しています。

さて、最近の男子ソフトテニス部の活動成績は、東予総体の個人戦で1組がベスト8、2組がベスト16で県大会出場を決めました。団体でも県大会へ出場することが決まりました。しかし、まだまだ満足できるような結果ではありません。僕たちの目標はあくまでも「インターハイ出場」、つまり団体戦での二連覇です。これは今年度愛媛県内で唯一、新居浜西高校だけが実現可能な目標です。この僕たちの目標が達成できるように、昨年度優勝校としての誇りを持ち、恥じることはないプレーをしてきたいと思えます。

心が変われば、態度が変わる
態度が変われば、行動が変わる
行動が変われば、習慣が変わる
習慣が変われば、人格が変わる
人格が変われば、運命が変わる
運命が変われば、人生が変わる
この言葉を心に刻み、学校生活、そして部活動に励みたいと思います。



部活動

音楽でつながる心

吹奏楽部 部長 土岐 葵



私たち吹奏楽部は、学校敷地内のいたるところで、音楽が大好きな仲間たちと音を響かせています。そして、吹奏楽において大切なチームワークを作り上げるため、一人ひとりの個性を上手く調和させ、一つのキレイな音楽を作るために毎日練習を頑張っています。ここでは、昨年の私たちの取り組みを紹介したいと思います。

一年の最初の大きな行事は、6月に行われる西高祭です。新入部員を迎え、新体制となつて初めての演奏です。西高祭のオープニングを楽しく飾ることが出来るよう、選曲をし、私たちも全校の皆さんにも楽しんでもらえるような演奏を心がけています。昨年は、ウイーンからの留学生と共に演奏することが出来ました。

7月に入ると、応援団とともに野球応援の練習です。野球部の皆さんのプレーの後押しが出来るよう精いっぱい演奏をします。昨年は当日に雨が降り、楽器を扱っている私たちにとってはとても大変な2日間でした。

そしてこの時期に、吹奏楽部最大の行事である夏のコンクールを迎えます。3年生が中心となって選曲をし、何ヶ月も前から練習を始めます。昨年は、とても速い連符やアクセントに苦しめられました。

ついに県大会当日。松山に向うバスの中で、期待と不安を抱えながら本番のイメージを繰り返しました。本番前の大切なチューニングでは、みんなの音と心一つにします。そして本番。結果は銅賞でしたが、部員全員が一つとなつて演奏することが出来た私たちに、悔いはありませんでした。

8月には昨年までとは違い、3年生12名が中国の大連で行われた「2009大連中日青少年交流音楽祭」に新居浜地区高校合同吹奏楽団として参加しました。また、新居浜東高校の定期演奏会やイオンでの演奏会に参加したりと、普段は味わうことの出来ないような体験をしました。中国での演奏は「音楽は国境を越える」というこ

とを改めて感じました。

そして9月の運動会です。1年生は応援練習、2年生は仮装準備との並行練習で時間は少なく大変でしたが、全校の皆さんが気合を入れて行進することが出来るような演奏が出来たと思います。

つづいて、11月は高等学校総合文化祭です。3年生が抜けて初めての大舞台ですが、聞いている人に楽しんでもらえるような工夫を凝らした演奏が出来ました。

12月は福祉センターでのクリスマス会と金栄小学校での点灯式、年明けの1月は銅夢にはまでの消費生活展の開会演奏と、3つのボランティア演奏会がありました。多くの地域の皆さんの前で演奏出来たことを誇りに思います。

2月は、文化センターで行われる「新居浜日中青少年交流音楽祭」に参加しました。今度は私たちが中国の皆さんを歓迎し、充実した時を過ごすことが出来ました。

そして1年の最後は、合唱部と共に演じる卒業式の開幕・退場演奏で締めくくられます。

昨年は今までと違い、人前で演奏する機会が多くなりました。そのさまざまな経験を活かし、今年も部員45名で新たな音楽を作り上げたいと思います。応援よろしくお願ひします。



母校の概況

Nihama-Nishi High School

強く逞しい生徒の育成を目指して



校長 横山 忠正

樟樹会の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、母校新居浜西高等学校に対し、変わらぬご支援・ご協力をいただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

平成二十一年度の生徒の活躍

進学の実績は、後のページに示してありますが、今年も卒業生の多くが志望校への合格を果たしま

した。また、難関大学合格者数が二十四名と、平成十五年以降では最高の成果をあげております。

部活動については、ソフトテニス部（男子）が県総体で団体・個人とも優勝し、団体は三十年ぶりのインターハイ出場を果たしました。文化部も、昨年の愛媛県高校文化祭で、優秀な成績をおさめて、本年夏の全国高文祭への出場を決めた部がいくつかあります。

このように、文・武両面にわたって活躍しています。

本校の課題

平成二十二年度、全日制では三百名の新入生を迎え、全校生徒八百六十四名でスタートしました。今年の本校の合格発表の日に

こんな光景がありました。合格が決まった女子生徒が、本当にうれしそうにとび上がって喜んでい

と、一緒に来ていたお父さんが、「西高に受かったくらいで喜ぶな！」と一喝したのです。このお父さんは、恐らく「西高に入学したことで安心することなく、これからは頭を切り替えて、より高いレベルの目標に向けて努力しなければだめだよ」と諭してくれたものと思います。本校へ入学したことを喜んでくれることはありがたいことですが、それで満足してしまい、後の努力を怠る生徒がいるのも事実です。本校に入学したら、

将来を見据えた夢や目標を持って授業や部活動に精を出し、逞しく育ってほしいと思っています。

定時制について

定時制は、三十六名の新入生と転・編入生を迎えて、生徒数が百十九名となりました。いろいろな事情から、全日制で学ぶことのできない若者がたくさん集まり、自分にあつた生き方を模索する姿を見ることが出来ます。この生徒たちが学業を全うして卒業し、世の中を生き抜いていけるよう支援していきたいと思っています。この、定時制の生徒たちへのご声援もよろしく願います。

以上、母校の現状をご紹介します。同窓生の皆様には、どうか一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



教職員の異動

《転入》

教頭	中田 潔 (西条)
教頭	立石 淳 (生徒学習センター)
事務長	小山 恒和 (新居浜東)
国語	岡田由嗣子 (講師)
数学	吉村 新平 (伊予)
数学	藤田 和幸 (小松)
理科	勝田 雅典 (新規採用)
理科	足立 忠司 (三島)
保健	下田 賢吾 (講師)
英語	月原まるみ (三島)
英語	森 恵美子 (松山北)
英語	成田 一美 (南宇和)
英語	越智美智子 (今治特別支援)
家庭	泉田 昌美 (講師)
事務	森 明夫 (浮島小)

《転出》

教頭	津村 和芳 (西条)
教頭	楠 禎裕 (小松)
事務長	三宅 昭治 (退職)
国語	和田 良文 (今治西)
数学	河野 育司 (今治西)
数学	坂東 大輔 (東予)
理科	二宮 邦彦 (丹原)
理科	園部 孝行 (西条)
保健	宇佐美秀文 (小松)
芸術	森本 弘子 (退職)
英語	菅 開 (新居浜工業)
英語	三好 徹明 (三島)
英語	家久 寧子 (松山西中等)
家庭	藤田美津子 (今治特別支援)
事務	辻 洋行 (中秋中)

同窓生が母校の教壇に立つ

岡田 利文 (卒業年)	45	教頭
中野 静江 (卒業年)	45	実助
塩崎 勇人 (卒業年)	46	地公
石川美千子 (卒業年)	47	国語
近藤 千晴 (卒業年)	54	事務
渡邊 洋人 (卒業年)	54	地公
渡邊 一生 (卒業年)	56	数学
浅田 武裕 (卒業年)	57	数学
星加 修史 (卒業年)	58	保体
五味むつみ (卒業年)	61	英語
井川 美穂 (卒業年)	62	英語
松長 健治 (卒業年)	62	数学
井川 紀英 (卒業年)	63	英語
井川 美都 (卒業年)	63	英語
塩崎 真紀 (卒業年)	63	国語
日野 真紀 (卒業年)	63	国語

藤田 和生 (卒業年)	6	理科
片岡 大介 (卒業年)	9	地公
小池 佳子 (卒業年)	9	英語
尾崎久美子 (卒業年)	11	理科
寺井 美保 (卒業年)	11	英語
下田 賢吾 (卒業年)	12	保体
吉村 新平 (卒業年)	15	数学
藤野 瞳 (卒業年)	20	事務



大学合格一覧

最近3力年の総合合格者数と、大学別合格者数の一部を紹介しておきます。

	20年	21年	22年
国公立大	136	150	152
私立大	443	393	378

北海道大	1	1	1
東北大	2	1	0
筑波大	1	4	1
東京大	3	0	0
京都大	3	4	4
大阪大	3	7	7
神戸大	4	7	4
岡山大	13	18	16
広島大	10	10	12
愛媛大	34	46	48
九州大	4	0	5

年間行事計画

月	日	行 事
4	8	全日制入学式・1学期始業式・定時制入学式
5	8	PTA総会
	17	1学期中間考査 (～20日)
6	4	県総合体育大会 (～7日松山市周辺)
	17	西高祭
7	30	1学期期末考査 (～7月6日)
	30	1学期終業式
8	26	2学期始業式
	4	運動会
9	5	定時制・通信制県総合体育大会
	28	2年生2学期中間考査 (～10月1日)
10	4	2年生修学旅行 (～8日)
	1	1・3年生2学期中間考査 (～7日)
11	19	定時制運動会
	20	高校総合文化祭 (～21日松山市周辺)
12	1	2学期期末考査 (～7日)
	20	2学期終業式
1	7	3学期始業式
	15	大学入試センター試験 (～16日)
2	25	学年末考査 (～3月4日)
	1	全日制卒業式
3	4	定時制卒業式
	18	3学期終業式



平成22年度愛媛県高等学校総合体育大会 結果一覧

6月4日から7日(水泳は6月19日・20日)にかけて、県高等学校体育大会が松山市を中心に開催され、本校からも181名の生徒が参加し、各競技で活躍した。主な結果は下記の通り。

○陸上競技女子			
走高跳	久保	決勝8位	
○バスケットボール女子			
一回戦	新西 93-59	南宇	
二回戦	新西 58-83	八高	
○バレーボール男子			
一回戦	新西 0-2	今工	
○バレーボール女子			
一回戦	新西 2-0	松東	
二回戦	新西 0-2	聖カ	
○バドミントン男子			
団体二回戦	新西 3-1	松東	
準々決勝	新西 0-3	新田	ベスト8
個人ダブルス	加藤・天神組		一回戦
○バドミントン女子			
団体二回戦	新西 3-0	土居	
準々決勝	新西 2-3	東温	ベスト8
個人ダブルス	直野・小野組		一回戦
○卓球男子			
団体一回戦	新西 3-0	三島	
二回戦	新西 3-0	宇南	
三回戦	新西 3-2	松北	
決勝リーグ	新西 2-3	宇東	
	新西 0-3	松商	
	新西 0-3	今南	4位
			※四国総体出場
個人ダブルス	浮川・西原組		三回戦
	永井・稲見組		二回戦
	五味・西田組		一回戦
個人シングルス	西原		ベスト16
			※四国総体出場
	五味・永井		二回戦
	西田・須崎		一回戦
○卓球女子			
団体一回戦	新西 2-3	北条	
個人ダブルス	池田・藤原組		二回戦
個人ダブルス	平林(千)・平林(美)組		一回戦
個人シングルス	池田・藤原・亀井		一回戦
○剣道男子			
団体一回戦	新西 4-0	松西	
二回戦	新西 1-2	宇南	
○剣道女子			
団体一回戦	新西 4-1	松中	
二回戦	新西 0-3	帝五	
個人戦	源代		一回戦

○テニス			
団体二回戦	新西 2-1	今南	
三回戦	新西 0-2	松南	ベスト16
個人ダブルス	伊藤・岡田組		ベスト8
	松本・多和組		一回戦
個人シングルス	伊藤		一回戦
○ソフトテニス男子			
団体一回戦	新西 1-2	八高	
個人ダブルス	石川・田中組		三回戦
			※四国総体出場
	安倍・合田組、藤田・西垣組		一回戦
○ソフトテニス女子			
団体一回戦	新西 1-2	野村	
個人ダブルス	生田・大井組		一回戦
○ハンドボール			
一回戦	新西 13-26	吉田	
○サッカー			
二回戦	新西 0-1	西条	
○柔道			
女子63kg級	金子 由佳		二回戦
○空手道			
男子個人組手	真鍋 龍平		一回戦
○弓道男子			
団体戦			予選
個人戦	高橋 翔太		予選
○登山男子			
			5位
○登山女子			
			オープン参加のため順位なし
○ダンス			
	「万華鏡」		13位
○新体操			
個人	堀 菜々美		総合 8位
	西村 佑紀		総合18位
	平井沙也加		総合21位
○水泳男子			
400m個人メドレー	中村 允彦		7位
200mバタフライ	越智 風太		5位
100mバタフライ	中村 允彦		4位
			※以上3種目四国総体出場
100mバタフライ	越智 風太		予選
○水泳女子			
200m背泳ぎ	森 愛菜		予選
100m背泳ぎ	森 愛菜		予選

○文芸部			
俳句甲子園	松山大会		
Bチーム			優勝
			※全国大会出場
Aチーム			一回戦
○放送部			
NHK杯全国高校放送コンテスト	愛媛県大会		
アナウンス部門			
曾我美里子			優秀賞
			※全国大会出場
小野 葵			決勝進出
幸田 真愛			予選

朗読部門			
	宝田 真衣、岡 マリン		決勝進出
創作ラジオドラマ部門			
	「Lovers Over The Time」		エントリー

● 全国高等学校総合文化祭出場 ●

○将棋部	徳永 綾・秋山 瑞穂・紀伊 知美
○文芸部	野住 朋可
○合唱部	(合同合唱に参加)
○美術部	秋吉 優美・石田喬士朗・秦 可南子
	村上 泉・森本 美由・横山 由華

文化部 大会結果

新居浜の動き

いま、別子ラインが新しい

市内中央部を流れる国領川上流、^{あしたながわ}足谷川に架かる朱色鮮やかな生子橋からマイントピア別子・鹿森ダム・遠登志溪谷・清滝等を経て、河又に至る延長約10kmの溪谷景勝地である別子ラインは、昭和30年にその大部分が県の名勝に指定され、昭和33年には、新日本百景の第5位に選出されるなど、古くから観光の名所として有名ですが、次々と新たな魅力が生まれていますので、ご紹介します。

マイントピア別子端出場ゾーン

観光坑道リニューアル

新居浜市が四国屈指の工業都市として

発展した礎は、元禄3年（1690）に発見され、翌元禄4年から採鉱が始まった日本三大銅山の一つである別子銅山です。残念ながら、昭和48年に閉山となりましたが、最後の採鉱本部が設置された端出場は、観光レクリエーションの拠点として開発され、平成3年にマイントピア別子端出場ゾーンとしてオープンしています。操業当時の鉱山鉄道や火薬庫跡を活かした観光坑道や温泉施設などがあり、市内では最大の観光施設として賑わっていますが、オープン20年目を迎えるにあたって、観光坑道がリニューアルされました。

江戸時代から昭和に至る283年の壮大な歴史ロマンを展示するだけでなく、体験し、楽しく学ぶということに主眼を置き、自らが体験できる「遊学パーク」が設置され、大人から子どもまで、今まで以上に楽しめる施設へと進化を遂げています。



高さ3.3m、幅5.7mの動く巨大シオラマ

青龍橋開通

新居浜市街と別子山地区を結ぶ主要地方道新居浜別子山線に県内では鋼製と

して、また360度転回する橋として唯一のループ橋である「青龍橋」が開通しました。この鹿森ダム付近は、道幅も狭く、急カーブのトンネルが連続していたため、普通車の離合や、大型バスの通行が困難な状況でしたが、開通により解消されました。



親柱には、龍がデザインされています

東洋のマチュピチュへようこそ

別子銅山の産業遺産を活用した観光施設として、平成6年に東平ゾーンはオープンしました。東平は、昭和5年に嶺南の旧別子より採鉱本部が移転されたことにより栄えた、標高約750m前後に位置する「山の町」です。

山の町として栄えた最盛期の東平の生活文化をジオラマや写真・映像で紹介しているほか、銅に係わる様々な製品や鉱石、赤石山系の自然も紹介展示した歴史資料館や銅細工体験ができるマイン工房があります。

近年、操業時の様子を今に伝える貯鉱庫跡や索道基地跡などの威容が「東洋の

マチュピチュ」と評されるようになり、観光客の人気を集めています。東平ゾーンへ向かう、市道「河又東平線」は、マイクローバスまで通行可能ですが、道幅が狭い上カーブが連続しますので、ご注意ください。



貯鉱庫跡や索道基地跡

変わりゆく風景

進む新居浜駅前土地区画整理事業

新居浜駅前土地区画整理事業も大詰めを迎えました。今年度は、駅前交通広場や、正光寺山古墳の公園整備が実施されます。

写真は、4月に開通した、住友鉱山鉄道跡を利用した「自転車・歩行者専用道路」です。橋中央通りをまたいでいるため、より安全に利用できるようになっています。



左端の建物は駅の西側にあるテレコムプラザビル

本部だより

平成21年度 樟樹会一般会計収支決算書

平成22年度 事業計画(案)

平成21年4月1日～平成22年3月31日

項目	21年度予算額	21年度決算額	備 考
前年度繰越金	3,717,770	3,717,770	
入会金(全日制)	2,871,000	2,814,900	853人(延べ人数)
入会金(定時制)	227,700	186,000	19人
雑 収 入	1,000	9,939	預金利息・貯金利子・会員名簿販売
運 営 会 費	1,500,000	1,019,000	運営会費 221件(3,000円/1口) 賛助会費 23件(10,000円/1口)
収 入 合 計	8,317,470	7,747,609	
会 合 費	1,200,000	1,247,205	理事会・総会補助
慶 弔 費	50,000	25,000	饌料・香典
人 件 費	1,440,000	1,440,000	賃金
事 務 費	120,000	114,148	
同 窓 会 賞	30,000	20,000	全日制 3名 定時制 1名
入 会 祝	700,000	637,560	全日制 303名 定時制 19名
支部への補助金	150,000	150,000	各支部総会 お祝い金
旅 費	200,000	85,000	各支部総会 出席
生徒への補助金	500,000	455,000	四国・全国大会補助
その他の事業費	150,000	122,406	西高祭生徒会支援 高校野球広告料他
通 信 費	250,000	186,004	電話代 切手・葉書代
雑 費・予 備 費	200,000	235,040	運営会費徴収に関する費用他
次年度繰越金	3,327,470	3,030,246	
支 出 合 計	8,317,470	7,747,609	

月 日	会 合 名	事 業 内 容
3月26日	樟樹編集委員会	「樟樹」21号 印刷所承認・概要相談
4月12日	会計監査	平成21年度 会計帳簿類
4月19日	樟樹編集委員会	「樟樹」21号 原稿依頼先および責任者決定
5月15日	第一回常任理事会	平成21年度 事業報告 平成21年度 会計決算報告 平成21年度 会計監査報告 平成22年度 役員改選 平成22年度 事業計画案審議 平成22年度 予算案審議 平成22年度 総会・懇親会開催準備について その他
5月17日	樟樹編集委員会	原稿持寄り・ページ構成・レイアウト打合せ
5月24日	第一回理事会	第一回常任理事会と同内容
6月7日	樟樹編集委員会	前回分校正・第2次原稿持寄り
6月14日	樟樹編集委員会	校正
6月17日	西高祭支援	模擬店(たこ焼き・焼きそば・フランクフルト・西高どら焼き・ラムネ販売)
6月21日	第二回常任理事会	平成22年度 総会・懇親会開催準備について 総会の議事内容、運営方法、会員券の販売招待者、チラシ、ポスター等 その他
6月21日	樟樹編集委員会	校正
6月25日	第二回理事会	第二回常任理事会と同内容
7月15日		「樟樹」21号 発行
8月7日	総会・懇親会	平成21年度 事業報告 平成21年度 会計決算報告 平成21年度 会計監査報告 平成22年度 役員改選 平成22年度 事業計画案審議 平成22年度 予算案審議 その他
1月下旬	第三回常任理事会	平成22年度の反省及び平成23年度の予定 同窓会入会記念品及び同窓会賞について その他
2月上旬	第三回理事会	第三回常任理事会と同内容
2月下旬	同窓会入会式	新会員へ入会記念品贈呈
3月上旬	同窓会賞授与	卒業式にて授与(全日制 定時制 若干名)
備 考 『東日本樟樹会』 総会 5月30日(日曜)開催 『近畿くすのき会』 総会 7月3日(土曜)開催		

樟樹会総会・懇親会へご参加を

毎年8月の土曜日には、総会及び懇親会を開催しています。

皆さんに楽しんでいただけるよう、懇親会の最後には抽選会を行ったりと、工夫を凝らしてはいるのですが、残念ながら近年参加者は減少気味です。

創立100周年まであと7年、3万人を超える同窓生、さまざまな年代の方々が一堂に会する機会はそうあるものではありません。旧交を温める良い機会ですので、お友達をお誘いの上、参加してみませんか。

また、一人でも多くの方々が参加できるようなアイデアをお持ちの方、事務局までご提案ください。



— 総会および懇親会のご案内 —

日 時 平成22年8月7日(土)

総 会 17時30分開会 懇親会 18時30分から

場 所 ユアーズ

チケッ 3,000円(一般会員)

新居浜市泉宮町5-8 TEL 0897-33-3535

1,500円(平成15年以降卒業会員)

当日も受付けます。お気軽にご参加下さいませようお待ちしております。

還暦を迎えて

40年以上も前のこと

近藤 博司（昭和44年卒）

騒音の中で授業

私が入学したときは、校門を入ると木造二階建ての本館、正面には古風で近寄りたがたい玄関がありましたが、まもなく解体工事が始まり、二年生の3月には新校舎（現在の本館）が落成しました。

この年は創立50周年で、木造で軒が低く壊れかけた長屋風の部室も、当時としては近代的なクラブハウス（現存）に建て替えられました。

そんなこんなで、閑静な学び舎と言うにはほど遠く、騒音の中で的高校生活だったように記憶しています。特に、今では考えられない杭打ちの音は授業を中断することも度々でした。

校歌盗作騒動

生徒会長在任中、ある大学生の先輩から、「母校の校歌を披露したら、香川県の三本松高校の校歌と歌詞がそっくりですが、どういうことでしょう」との問い合わせが学校へ寄せられました。

「四国の連峰（みね）にこもりたる」のところ、三本松の方は「阿讃の連峰」になっており、この部分以外はまったく

同じでした。

調査の結果、当方は昭和31年制定、向こうは昭和2年、盗作はこちらであることは明々白々で、新しい校歌を生徒・教職員・保護者を対象に公募して作ることにしました。ただ、三部合唱の曲については、馴染み深く好きだとの意見が多く、残すことになりました。

今の校歌が歌われるようになったのは、私たちが卒業する半年前で、今校歌を歌えと言われても、紫煙る石鏑の〜までは出てきますが、その後は出てきません。一方、黎明に高く聳え立つ〜は最後まで覚えていきます。

当時、血気盛んな若者（私）は、10年以上にわたり歌い続けた先輩や我々に対する冒とくである、盗作者を全校集会に呼んで謝罪させるべきだと、校長に詰め寄りましたが、校長の先輩教員でもあり、大人の裁定だったのでしょうか、何事もありませんでした。今当時の校長の歳となり、あれで良かったのだと思つとも、恥ずかしいことを言ったのだと反省しております。

ここにこのことを掲載するにあたっても、躊躇いがありました。周年記念誌などには書かれることは無いであろう本校の史実として、知っていてほしいと考え書かせていただきました。

東大現役合格者、セロ

私たち同期生には現役で東大へ行った人は居ません。もう40年以上前のこと、

当事者以外には忘れられていることですが、学園紛争真っ只中で、後にも先にもこの年だけ東京大学は入試を行いませんでした。

今となつては「ヘエ」で済まされそうですが、入試戦線はそれはもう大変でした。団塊の世代の積み残し（浪人）が最多の上に頂天の東大が入試をしない、東大を狙っていた人は京大へ流れ、順送りです。同期生の中にはその年は受験せず、また、京大へ入ったが退学し、翌年東大へ行った者も居ます。そんな大変な年（昭和44年）に生まれ、

今となつては「ヘエ」で済まされそうですが、入試戦線はそれはもう大変でした。団塊の世代の積み残し（浪人）が最多の上に頂天の東大が入試をしない、東大を狙っていた人は京大へ流れ、順送りです。同期生の中にはその年は受験せず、また、京大へ入ったが退学し、翌年東大へ行った者も居ます。そんな大変な年（昭和44年）に生まれ、



和25年）に生まれた私たちです。

現在 各地で同期会

50名の8クラスで400名（定員を大幅に超える受験者だったので間違いないと思います）が入学し、364名が卒業しています。現在所在がわかつている同期は301名で、樟樹会の名簿を見ても、その前後の学年では抜群の所在判明率を誇っております。（確認している物故者は21名）

同期会（新居浜）は3年半毎に盆と正月交互に開催しています。直近では昨年8月に「還暦目前―最後の茶飲み友達をつくるう」の呼びかけで、同期39名と寺岡先生、飯尾先生を来賓としてお迎えし、計41名が集まりました。（写真）

全国各地でそれぞれ重要なポストに就いている年代なのでしょうが、なかなか集まりも悪いのですが、今後は定年なども迎え暇もできるでしょう、いつか100人超の同期会ができるのを夢にお世話役を続けたいと思っております。

関東地区では、20年ほど前から毎年集まっております。私の出張にあわせてくれたり、何度か出席させていただいております。毎回、次回の幹事を選任し、10名前後が集まっています。

松山圏でも不定期ではありますが同期の集まりが開かれています。

また、この度、関西地区でも声が上がっており、本年7月24日に関西地区44年同期会が開催されます。

同

期

会

俤

り

昭和22年高等女学校卒業生 同期会 夢多き女学校の思い出

矢野 久美子（昭和22年卒）

今年4月23日、昭和22年春県立新居浜高等女学校卒の同期会を、リーガロイヤルホテルで行いました。200余名中39名が集まりました。

会の中では、「これから毎年しようね」（無理）から、「これで最後だから」（？）までありましたが、懐かしさに変わりはありません。

宴会に先立つあいさつから抜き出しますと……、

“当時は、今の西高が建つ前の木造校舎で（コレガ受ケタ）、本館の東と西に広い木の階段があり、大勢が一度に上がり下り出来、降りた所に大きな鏡がありました。西側は、洋裁室、割烹室、作法室が続く、南の端に音楽室がありました。”

夢多き女学校生活も、戦争の拡大によって、三



年生になると工場に動員され、ガランとした工場内で、六尺旋盤を操作して兵器を削る毎日でした。（今の中三年！）終戦となり、後の一年半ほど勉強しました。戦前と戦後の接点となる時期を丁度学業の途中で迎えた事が、この学年の一番大きな特色です。”

でも戦後は、クラス対抗の音楽会でハイドンの「四季」の四重唱とか、後の高校よりむしろ程度の高い授業でした。

平和な時代に傘寿の祝膳を囲むといったことは、本当に夢のまた夢です。お互いの健康を祈って、東京へ、大阪へ、広島へと帰って行きました。

昭和45年卒業生 同期会 WEST45会 しじゅうぎげんかい

明星 裕子（昭和45年卒）

昭和45年卒の同期会を5年振りに今年1月2日レイグラッツェふじて開催した。今回の参加人数は41名（男性26名、女性15名）に恩師3名（越智謙井出上光夫、高橋正明先生）；数では前回を下回ったものの、終始和気あいあい、これまでの同期会の中では一番盛り上がった。その証拠に、自己紹介やゲームで楽しい時間を過ごし閉会となった後も、先生方と数名を除く大部分が二次会になだれ込んだ。

この日の参加者の中には、もう新居浜には実家がないにもかかわらず遠くから出向いてくれた人や、これまで都合がつかなかったけれどやっと出席できたという人もいた。初参加の人とは40年ぶりのご対

面だが、かつての面影はすっかり無くなっていても、気持ちだけは忽ちあの頃に戻れるのが同期会の醍醐味だ。

今では私達も還暦目前となり、これから次第に仕事などから解放され、気持ちにゆとりのある時間を過ごせる年代となるのだろう。そんな時こそ同期会で親睦を高め、いつまでもお互いに健康でまた会えた喜びを分かち合いたいと思う。以前、同期の全員にアンケート用紙を郵送し、同期会の名称を募った。その時に決まった名称は、45年卒にちなんで「WEST45会 しじゅうぎげんかい」。しじゅうぎげんかいのみんな、しじゅうぎげんかい？ また会える日まで元気だね。



「成人式記念同期会」 の開催報告

平成20年卒業生同期会代表幹事 神野 翔
2010年1月10日（日）、レイグラッツェふじて、平成20年卒業生による「成人式記念同期会」を開催いたしました。

卒業して初めての同期会は、同日の成人式に合わせ開催。久々に同級生と会えた喜びと、ひっきりな

お悔やみ

樟樹会副会長 鈴木健二氏 (昭和38年卒)

平成22年4月12日に
ご逝去されました。
(享年65歳)

鈴木氏は、常任理事
事として、長く同窓
会活動にご尽力を賜
りました。

謹んでご冥福をお
祈りいたします。



21号から表紙写真を毎年変えます



大久保フォトス
大久保 直幸氏
(昭和44年卒)

生徒諸君には中学生の頃から“写真屋のおいちゃん”で馴染みの方も居ると思いますが、大久保フォトスの大久保直幸氏に、弊社表紙用に一宮神社の「樟樹」の撮影を依頼しました。大久保氏は撮影談を次のように語っておられました。

毎年、桜花を天候や風、特に陽光などに気を配って、花の色が最もきれいに出よう撮影しているので、同じ植物だとして、軽い気持ちで承諾したものの、写真にしてみるとちょっとした光の条件で、若葉色がきれいに出来なかったり、今日は絶好の撮影日和だと思って現地へ行っても、地上ではそよ風なのに枝の先のほうは結構揺れていたり、手間取った撮影でした。五月晴れの日を選んで何回も午前と午後に出かけました。いい写真が撮れたと思います。

発行所 樟樹会
〒792-0024
新居浜市宮西町4-46
TEL 0897-32-4331
FAX 0897-32-4331

発行者 畑田 雅敏
編集者 近藤 博司
印刷所 株式会社サラト
発行日 平成22年7月15日

委員長	近藤 博司 (昭44普)	委員	井上 和子 (昭20女)	安藤 寛和 (昭58普)
	世良 賢克 (昭26普)		武田 信之 (昭28普)	越智 孝司 (平2普)
	近藤 司 (昭42普)		近藤 雅敏 (昭44普)	佐藤 尚史 (平8普)
	畑田 紀子 (昭44普)		畑田 雅敏 (昭44普)	片岡 大介 (平9普)
	塩崎 勇人 (昭46普)		伏見 紀子 (昭44普)	日野 愛子 (平12普)
			吉村 新平 (平15普)	

しに出てくる思い出話で、会場は終始盛り上がりました。
当日はなんと、同期生313名中196名、恩師8名、計204名という、幹事の予想を上回る出席をいただきました。
幹事会では、初めての同窓会で戸惑いながらも、少しでも感動のある再会の場を創ろうと約1年前から打ち合わせを開始し、特に2ヶ月前からは本格的な準備に多くの時



間を費やしました。それだけに、多くの出席は嬉しい悲鳴でした。
また、私事ではありますが、お手伝いをさせていただいている東日本樟樹会で、先輩方の同窓会のマネジメントを毎月のように横で見せていただいたのが、この時大いに役立ちました。同窓会組織は、親睦の機会のみならず、大学生にとっては、母校の先輩方から様々な社会勉強ができる場だと思っています。諸先輩方の同窓会活動を見習いながら、我々の同期会運営を継続的にしていこうと思っております。
○お知らせ 平成20年卒業生同期会 次回は、2012年正月に開催いたします。また、学年メーリングリストに登録されていない方は、神野 (s08403j@stc.keio.ac.jp) までご連絡ください。

編集後記

創刊号から当誌に携わり20年、7号から11ページは還暦を迎える年代に書いていただいておりますが、その40代の自分に書く順番が回ってくる事など思いませんでした。

この編集委員長も定年退職させていただきたいのですが、次なる人がなかなか現れてくれません。また、同期である畑田樟樹会会長に「会長在任中は辞めずに支えるから」などと酒の席で言ったらしく、やる気満々の会長に着いて行かざるをえない状況です。

ただ、本人は若いつもりですが、もう「お年寄り」と呼ばれる域に達しましたので、若い方々のご支援を協力が必要としています。斬新なご意見やアイデアを切望しておりますので、編集委員に加わっていただきたく、連絡をお待ちしております。

